

令和5年(2023年)11月5日

市民タ イ ム ス

先日、地区の仲間と研修で長野市の松代
象山地下壕を訪れた。受け付けを済ませ、

強制的に動員されて、食糧事情の悪い中、
犠牲者も多く出たとのことだ。

ヘルメットをかぶって中に入った。電灯が
ついていて通路は見えるが、でこぼこで歩
きにくかった。奥へ行くに従って天井は高
くなつて、空気がひんやりしてきた。途中
の岩盤の壁には削岩機のドリルの先端が突
き刺さっていた。

私は「なぜ、こんなにまでして戦争を続
けなければならなかったのか」と疑問を抱
くと同時に、ロシアのウクライナ侵攻、イ
スラエルとパレスチナ・ガザ地区での戦闘
で多くの人々の命が奪われる現状と重ね合
わせながら歩い

見学できる範囲は
500m足らずで

松代地下壕を訪れて

た。暗い壕から出
た目には、秋晴れ

あるが、碁盤の目のように張り巡ら
された通路は500mにも及ぶと
いう。そして、がれきなどがそのま
まの状態で残っていた。

の澄み切った空がまぶしかった。そ
して、今の日本は平和であること
に、この上なく幸せを感じた。

配布されたパンフレットを見る

まだ行ったことのない方は、一度

と、第2次世界大戦の末期、軍部が
本土決戦最後の拠点として極秘のう
ちに大本営などを移す計画で、突貫
工事が続いたという。巨額のお金が
投入され、大勢の朝鮮人、日本人が

でいいからこの地を訪れてほしいと
思う。次回は県内外にいる孫たちを
連れて再訪しようと心に誓い、地下
壕を後にした。

点差

こうさてん

(安曇野市穂高、荻原義重、79歳)